

英語の授業の復習の仕方を考える

—辞書で意味を確かめ、「発音記号」で読み方を確かめたあとは、
音読練習と書き取り練習で英語を身に着けよう—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

この「開倫塾の時間」は、「どのようにしたら効果の上がる勉強、学習ができるか」、社会人を含めて「効果の上がる学習の方法」についてお話をする番組です。先週はお盆中でしたが、「数学・算数の復習の仕方」を考えました。暑い暑い夏休みのお盆明けの今週は、「英語の復習の仕方」を考えてみます。学校や塾、予備校などの英語の授業が終わったあとに、何をどのように復習したら英語の力がアップするかというお話です。この「授業の復習の仕方」は、英語だけでなく英語以外の外国語についてもあてはまります。また、NHK のラジオ講座の様々な外国語の復習にもあてはまりますので、是非参考にしてくださいね。

2. まず大切なことは、学校や学習塾の授業で今日は教科書・問題集・ワークブックなどの何ページから何ページまでを学習したかを確認して、ゆっくりでよいから、そのページに出てくるすべての文字、つまり、すべての日本語と英語を少し大きな声を出して読む、音読することです。では何回読んだらよいのか。英語は語学ですので、1回だけではなく、できれば2回3回と声を出して読んでみてください。日本の学生・生徒の外国語学習で今一番足りないのは音読だといわれています。音読してよく読めない日本語や、英語の単語があれば、それをチェックしてくださいね。

3. その文字が読めないということは、意味もわからないということだと思います。ですから、よく読めない日本語があったら気持ちが悪いと思って、国語辞典や漢和辞典を使って読み方や意味を確かめてください。漢和辞典の使い方がわからない方は、辞典の最初のほうに載っていますのでよく読んでください。英語については、英和辞典を用いて読み方を確かめてください。ただ、問題は英和辞典にはカタカナで読み方が示してあることです。カタカナ読みも参考にはなりますが、カタカナの通りに読むと日本語の発音になってしまいますので、カタカナの通りに読んでも英語として通じることは少ないです。ではどうしたらよいか。ほとんどの英語の辞書には「発音記号」が載っていますので、「発音記号」をノートに写してその通りに読むことが大切です。電子辞書には音声が出るものもありますので、電子辞書を使う方は音声の出るところを用いて何回も、何回も発音練習

をしてください。ただし、発音記号は大切ですが、発音記号の読み方がわからないと読めません。そこで、「発音記号の読み方」を早めにマスターすること、身に着けることが大切です。発音記号の読み方は、初級用の辞書の初めのところに載っています。このような形で読む練習をしてくださいね。ではどのくらいまで読む練習をしたらよいかといいますとスラスラ、スラスラと読めるようになるまで練習することが大事です。スラスラ、スラスラと、つかえないで読むことができるようになるまで、声を出して読む練習をする。これを「音読練習」といいます。できれば音読練習をしている間に、大切と思われるところだけでもよいですから、文章ごとに正確に覚えてしまう。大切な文章はまるごと覚えるつもりで「音読練習」を繰り返す。何回ぐらい繰り返し練習したらよいか。

4. 例えば、國弘正雄(くにひろまさお)先生という同時通訳で有名な先生は、中学校の英語の教科書を熱心に音読練習しました。國弘先生は何回音読練習したかといいますと、何と 500 回だそうです。同じ英語の文章を 500 回読む。500 回読めば中学生なら頭に入るといいます。中学生のときに音読練習した文章は忘れることはなかったとご本人もおっしゃっておられます。國弘正雄先生は私が尊敬している先生です。皆様も國弘先生に習って、500 回とはいわないまでも、100 回単位で音読練習することをお勧めします。
5. このあとは、意味のわからない単語が出てきたら英和辞典を使って語句の意味を調べ、ノートに語句と意味を書き写すとよいと思います。辞書を使うといいですよ。元気な人は、英語で英語が説明してある英英辞典で意味調べをして、英語で意味を書き写しておくともよいと思います。ちょっと難しいかもしれませんが、是非挑戦してみてください。
6. 次は、書きにくいというか、読むことは読めるが、練習をして読めるようにはなったが、正確に書けなそうな単語があったら、書く練習をする。繰り返し、正確に書く練習をすることが大事です。日本では書道を習っている人が多いので、日本人が書く英語の文字も非常に美しい。日本人は世界で一番美しい英語の文字を書くと外国の方々からいらわれています。書道を習うことが盛んな日本人は、ブロック体でも筆記体でも一番美しい英語の文字を書くといらわれています。そこまで評価されているのですから、もっともっと美しい英語を書くための練習をしたらよいと考えます。なぜなら、文字を美しく書くことのできる人は、非常に教養が高いと高く評価されるからです。英語を含め美しい文字を書くことができることは、日本人の素晴らしさの一つですので、もっともっと書き取り練習をして美しい英語を書けるまでにしてくださいね。英語はブロック体だけではなく、筆記体を書く練習もしておいたほうがよいと思います。ブロック体しか書けないと、自分のサインが簡単に盗まれて犯罪の被害者になることもあります。また、筆記体を読み取るときにも筆記体を練習しておいたほうがよいと考えます。筆記体を練習するときは、「ペンマンシップ」という英語の文字の書き方の練習帳がありますので、それを使ってください。自分の氏名だけは筆記体できれいに書けるようにしておくことをお勧めします。

7. それから、英語の単語をどのくらい知っているかで英語の学力は決まりますので、とにかく一度学習した英単語はすべて辞書で意味を調べて、「音読練習」と「書き取り練習」をしてすべて身につける、「定着」させることを心掛けてください。例えば、1日に10語の新しい英単語を調べて、使われている文章といっしょに正確に身につけることが一番のお勧め方法です。その単語が用いられている文章とともに1日に10語を身につければ、1年間では3650語という膨大なことばをその用法とともに覚えることができます。3年ですと10000語以上の英単語をその用法とともに身につけることができます。継続は力、ことばの数量は力となりますので、今までに身につけていなかった英単語を1日に10語、1年間で3650語、3年間で10000語という目標を決めて、用法とともに身につけてください。中学生の方もやっていただければ力がつきますので、是非やってみてください。皆さんが学習している教材は、学校の教科書や予備校のテキスト、学習塾のテキストであるかもしれませんが。また、ラジオの基礎英語や続基礎英語、英会話など、いろいろな語学番組でも学習できます。それから、英字新聞でも学習できます。ありとあらゆる手段を利用して、英語の学習量を増やしてください。1日に10語、1年間で3650語、3年間で10000語を1回読んだものを全部読めるようにし、書けるようにするとそれくらいはいきますので、それが一番よい英語の復習の仕方だと思います。このような形で繰り返し繰り返し「読む練習」と「書く練習」をし、辞書を用いてわからないことばを調べる。できれば英語で意味が書いてある英英辞書でことばの意味を調べることが、英語の復習のポイントです。是非、そのような形でやってみてください。文法事項がわからなかったら、学校の教科書や学年別の参考書に全部書いてありますので、説明をよく読む。また、学校の授業のノートをよく読んで、文法事項を身につける。これらのことをやっていただければと思います。とにかく、読んで読んで読みまくる。書いて書いて書きまくる。辞書は引きまくる。この3つを復習のポイントとしてお勧めいたします。

8. 文法事項がよくわからなかったら、英文法の参考書を今述べた方法で学習してみましょう。

以上